

デザイン工学部

I 2022年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2022年度大学評価結果総評】(参考)

デザイン工学部は、ほぼすべての評価項目について適切に対応しており、更にそれを押し進めた取り組みを実施している。特に、学生の教育の充実と地域連携、社会貢献活動に積極的に取り組んでおり、今後、さらなる飛躍が期待できる。また、デザイン工学部の各学科は、工学をベースにしながら他の組織や学問分野との連携を図ることで学生教育を充実させている。これは、知識の融合による正しい価値を創造しデザインする工学としての「総合的デザイン」能力を身につけた学生を養成しようとする理念にかなっており、高く評価できる。

また、COVID-19への対応・対策としてZoomや学習支援システム、Google Classroom、YouTube等、あらゆる方法を併用・活用しており、新型コロナ禍前の状況に戻った際にも、新型コロナ禍前の従来の方法の長所とこれらの新しい方法の長所を融合させたより良い教育方法の構築が期待できる。

一方で、理系学生の集大成とも言える卒業研究の実施方法や対応についての記述が少なかったが、実際には十分に実施されていることが予想されるため、今後の自己点検・評価の際に記載され、見える化されることを期待したい。

【2022年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

デザイン工学部では、今後も学生の教育の充実と地域連携、社会貢献活動に積極的に取り組んでいく。また、デザイン工学部の各学科は、工学をベースにしながら他の組織や学問分野との連携を図ることで学生教育を充実させている。

また、デザイン工学部のカリキュラムは、実験・実習系科目が多いことから、2022年度は、COVID-19への対応・対策については、学部共通科目などのような多人数科目やオンラインでも教育効果の高いコンピュータ実習科目についてなどを除いて、学生によって密な空間にならないように配慮しながら、対面を主体にして授業を行っていく。

理系学生の集大成とも言える卒業研究の実施方法や対応についての記述が少なかったとの指摘があったので、この点については「学習成果を把握する取り組み」として各学科で詳細な記述を追加した。

II 自己点検・評価

1 教育課程・学習成果

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。

1.1①授与する学位ごとに、学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)を記入してください。

デザイン工学部

所定の単位の修得により、以下に示す水準に達した学生に対して「学士(工学)」を授与する。

1. 国際的な視野に立ち、自然、環境、歴史や文化に配慮して、美学と工学・技術の融合から生まれる、新しい「ものづくり」・「空間づくり」・「都市づくり」に関する基本的な知識や考え方を体系的に理解できる。
2. 工学の知識体系を背景として、文理を問わず他の学問分野との知識の融合による総合デザイン力を身につけている。
3. 総合デザイン力を実際問題に適用するための思考力・応用力を身に付け、さまざまな制約条件を正確に分析・理解した上で計画的に課題に対応できる。
4. 社会の一員として、他者と協力できる。
5. 社会との対話や社会への説明のためのコミュニケーション能力を有する。

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

6. 自己の能力向上を継続的・積極的に進める意欲を有し、継続的自己学習を計画的に実行できる。

建築学科

所定の単位の修得により、以下に示す水準に達した学生に対して「学士(工学)」を授与する。

1. 大学で学び得た事柄を良き社会人として人々の厚生と福利のために役立てることを倫理的な使命と考える。
2. 建築家、建築技術者として社会から付託されている職能が安全かつ健康にして美しい建築・都市環境の創造とその保全にあることを理解し、その職業的責任を果たす覚悟がある。
3. 修得した建築に関する基礎的な知識と技術を有効に活用して、様々な分野の協業関係者と相互理解を深め、協調的に取り組みながら、最良の成果を目指すことを第一義とする。
4. 建築に関わる情報技術の習熟を通じて、複雑で多岐にわたるデータを的確に把握し正確に分析処理することができ、結果を解りやすく有用な表現形式に再構築し提供できる。
5. 企画やデザイン提案、研究や報告内容について、論理的に記述し明解に口頭説明する能力、及び他者と建設的に討議討論する能力、並びにそれをいついかなる場においても発揮することのできる語学力を有する。

都市環境デザイン工学科

所定の単位の修得により、以下に示す水準に達した学生に対して「学士(工学)」を授与する。

1. 地球的視点の下で地域の歴史・文化を重んじながら、持続可能社会に必要な基盤システムの整備と維持管理を担うことができる。
2. 科学技術の光と影を的確に見極め、人類の幸福を実現するための公益に資する技術を社会へ提供できる。
3. 技術者としての公平性・誠実性・不偏的態度を備え、継続的に自己を研鑽するとともに、後進の人材を教育・育成することができる。
4. 技術者としての使命を果たす上で必要な文理にわたる教養と専門知識を備え、それらを活用・応用することにより様々な制約条件下で困難な課題を解決することができる。
5. 地域・国際社会との対話・協調・協働に必要なコミュニケーション能力を有し、技術者としての説明責任を果たすことができる。

システムデザイン学科

所定の単位の修得により、以下に示す水準に達した学生に対して「学士(工学)」を授与する。

1. ものごとを、様々な要素が複雑に関係しあうシステムとしてとらえ、その中から問題を発見することができる。
2. 人間を中心とした「もの・システムづくり」ができる。
3. 科学的・工学的視点に立って、具体的・現実的なものやシステムを構成し提案することができる。
4. 環境・健康・福祉・公共の安全を理解できる。
5. 国際的な視野に立って判断ができ、技術者として説明責任を果たすことができる。

1.1②上記のディプロマ・ポリシーには、学生が修得することが求 はい

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

められる知識、技能、態度等、当該学位にふさわしい学習成果が示されていますか。	
1.1③上記のディプロマ・ポリシーを公表していますか。	はい
【根拠資料】	
https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui_juyo/gakubu/	

1.2 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。

1.2①授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）を記入してください。
<p>デザイン工学部</p> <p>本学部の理念・目標に掲げる「総合的デザイン」能力を身につけた学生を養成するため、以下のような、海外における語学研修を含む外国語科目、文理様々な分野に関わる基盤科目、専門科目を体系化し、一体的に学ぶことができるカリキュラムとしている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 外国語科目（英語などの語学や海外語学研修） 2. 基盤科目（総合系、人文社会系、理工系、留学生科目） 3. 専門科目（導入科目、基礎科目、展開科目、特別科目） 4. その他（他学部公開科目など） <p>これらの科目体系の編成に際しては、以下の事項に配慮している。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国際的視野を涵養するための長期の海外語学研修を含む外国語科目の充実 2. 文理を問わず他の学問との知識の融合と、専門科目への一体的な展開を目指した基盤科目の充実 3. 多様な学びを支援するための導入科目の充実 4. 専門の基礎的科目と専門教育の連携と、その体系的な編成・配置 5. 実務と結びついた演習・実習教育、スタジオ教育の充実 6. 多分野の先端技術に対応するための学科間の共通科目の設置 7. クラス制・担任制導入による個人差や多様性を尊重した少人数教育の充実 8. 社会への情報公開や説明責任の遂行に必要な倫理観を養うための技術者教育の充実 <p>建築学科</p> <p>工学的教養と専門のシームレスな融合に基づく建築学の知識と技術を体系化したカリキュラムとしている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 開講科目の体系 <ol style="list-style-type: none"> ① 外国語科目 ② 基盤科目 ③ 専門科目 2. 五つの専門科目系と目標 <p>専門科目に以下の五つの系を配置し、それぞれに目標を設定している</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 建築デザイン：理論と美的視点に基づき、建築の企画・計画の流れを把握し、建築・都市という実体にまとめ上げる手法を希求する。 ・ 建築史・都市史：都市と建築の歴史を学び、その成立した社会的・文化的背景を把握し、将来の都市や建築の再生へ活用する。 ・ 環境工学・建築設備：環境保全への配慮をしながら、安全・健康・利便・快適な空間

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

を提供するための技術を追求する。

- ・ 建築構造：科学と技術の叡智により、安全・安心で持続的な構造物を合理的かつ美しく設計する手法を探求する。
- ・ 建築構法・施工：先端的な構法と施工技術について研究し、建築材料や工法の観点から現代の社会的責任を果たす術を模索する。

3. 科目体系が備える特徴・教育効果

基盤科目は、専門科目と連携し、工学的知識と学際的教養の円滑な修得が図られるよう体系化している。

専門科目は、工学的な知識・理論に芸術的な素養を重合させるとともに、五つの系が有機的に結びつくように構成している。

五つの系を横断する少人数教育による PBL（学生が課題に取り組むプロジェクトベースの学習）科目としての各種のスタジオを配置し、実践的な能力の育成を図っている。特に、1年から4年次まで通して、建築設計を総合的に学ぶデザインスタジオを配置し、個性の発見と伸長を図っている。

都市環境デザイン工学科

一般教養、語学などから基礎・専門に至るまでの都市環境デザイン工学の知識と技術を体系化したカリキュラムとしている。

1. 開講科目の体系

- ① 外国語科目：英語、英語以外
- ② 基盤科目：総合系、人文社会系、理工系、留学生科目
- ③ 専門科目：
 - (i) 導入科目
 - (ii) 基礎科目
 - (iii) 展開科目
 - (iv) 特別科目

2. 三つの専門科目系と目標

(ii)基礎科目と(iii)展開科目に関しては三つの専門科目系が以下のように設定されており、それぞれの目標に向かって学修する。

I. 都市プランニング系：持続可能で美しい都市や国土を実現するために、都市機能・環境・景観・歴史文化等の多様な観点に関する分析・計画・デザインについての知識と技術を修得する

II. 環境システム系：自然との共生と災害の軽減・緩和を果たす環境システムを創り維持するための基礎学理と先端技術を修得する。

III. 施設デザイン系：安全で機能性の高い構造物をデザインし、維持・活用するための知識と技術を修得する。

3. 科目体系が備える特徴・教育効果

・ 初学年及び2年度に配置された導入科目を通して専門科目への円滑な移行が可能である。

・ 地域・国際社会で活動する技術者となるために、外国語・基盤科目・学科基礎科目の受講を通して人文・社会・自然科学に関する基礎知識、外国語能力、技術者倫理などを

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

修得できる。

- ・基礎から専門科目に至る学術・技術体系の階層性、専門科目間の相関構造を正しく理解し、総合デザイン能力着実に醸成されるように、授業科目が体系化されている。
- ・実習・演習・スタジオ系科目においては知識体系の実質化・実装性を体験でき、充実したアクティブ・ラーニング授業が進められている。
- ・基礎科目の履修によりデザイン工学全般にわたる最新技術情報を修得し、総合デザイン能力を確実に習得できる。
- ・クラス担任制度を導入し、各自が備えた資質・個性の多様性を活かした少人数授業を受講できる。
- ・達成度自己評価システムによって、各学年・就学段階における学習目標達成度、GPA、技術者資格要件の充足状況などを学生自身が自主管理し、必要に応じて担任教員の支援を受けながら効果的にディプロマ・ポリシーを実現できる。

システムデザイン学科

システムデザイン学科は、人間中心の機能的・美的デザインを基本に、横断的な知識の融合と豊富な実習体験を通して、コンセプトデザインからプロダクションマネジメントまで、「もの・システムづくり」を総合的に学ぶカリキュラムとしている。

1. 全科目を以下の3つの区分に分け、総合的な知識や能力を身につける。

- ①外国語科目
- ②基盤科目
- ③専門科目

2. 外国語科目を1年次に集中的に学修することで、実用的な英語能力を修得する。また、海外英語研修などの英語に関する専門科目を通して、英語によるコミュニケーション能力の向上を図る。

3. 基盤科目は、幅広い教養の修得を目指して、総合系・人文社会系・理工系の各区分に科目を配置する。このうち理工系には数学や力学、総合系にはプログラミング、図形科学、統計学、認知科学などの科目を配置し、専門科目を学修するうえで必要となるデザイン工学的教養を修得する。

4. 専門科目は、もの・システムづくりを「クリエイティブ」(クリエイション系)・「テクノロジー」(テクノロジー系)・「マネジメント」(マネジメント系)の3つの視点からとらえ、これらをバランスよく履修することで、もの・システムづくりに必要な知識や技術、考え方を多角的に学ぶ。

クリエイション系：人々が求めている“何か”を具体的な形にするために、構成力、編集力、発想力、問題発見能力とそれを他人に対して説明できる能力を修得する。

テクノロジー系：構想やアイデアを実現するための具体的な構造や機能を、現実世界の中で設計し、それを現実のものやシステムとして作り上げ、動かして見せるための知識と技術を修得する。

マネジメント系：経営戦略や、マーケティング、そして最適オペレーションなど、システムデザインを実際に社会の中で人々の手によって実践するために必要な知識と技術を修得する。

5. 製品・サービスの提案・開発・評価などを行う創成型・プロジェクト型科目により、実社会との連携を取りながら、総合的デザインに対する動機付けや実践的な能力を修得する。また卒業研究・卒業制作を通して、もの・システムづくりに関するより高度で専

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

門的な視点・知識・技術、ならびに研究や制作の成果を論文や作品としてまとめ上げる能力を修得する。	
1.2②上記のカリキュラム・ポリシーには、学習成果の達成を可能とするための教育課程の編成（教育課程の体系、教育内容）・実施（教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等）方針が示されていますか。	はい
1.2③上記のカリキュラム・ポリシーを公表していますか。	はい
【根拠資料】	
https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/kyoiku_katei/gakubu/	

1.3 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

1.3①「法政大学学則」第23条（単位）に基づいた単位設定を行っていますか。	はい
--	----

1.4 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。

1.4①「法政大学学則」第22条の2（履修科目の登録の上限）に基づき、1年間又は学期ごとの履修登録単位数の上限設定を行っていますか。	はい
1.4②学生の履修指導を適切に行っていますか。	はい
1.4③学生の学習指導を適切に行っていますか。	はい
1.4④学生の学習時間（予習・復習）を確保するための方策を行っていますか。	はい
1.4⑤それぞれの授業形態（講義、語学、演習・実験等）に即して、1授業あたりの学生数が配慮されていますか。	はい
1.4⑥シラバスの内容の適切性と授業内容とシラバスの整合性を確保していますか。	はい
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> ・デザイン工学部生のための履修の手引き（冊子体、法政 HONDANA） ・法政大学ウェブサイト「教育目標・各種方針」 http://www.hosei.ac.jp/gaiyo/rinen/hoshin/index.html <ul style="list-style-type: none"> ・Web シラバス ・IAE サーバー「RFC」（Request for Comments）の利用案内（建築学科） ・デザインスタジオ連絡会議議事録（建築学科） ・卒業研究実施記録、各授業の講義記録（都市環境デザイン工学科） 	

1.5 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。

1.5①「法政大学学則」別表(10)「認定単位の上限」に基づき、既修得単位などの適切な認定を行っていますか。	はい
1.5②「法政大学学則」第17条（卒業所要単位）に基づき、卒業の要件を明確にし、刊行物、ホームページ等のいずれの方法によっても、予め学生に明示していますか。	はい
1.5③成績評価の客観性、厳格性、公正性、公平性を担保するための措置を講じていますか。	はい
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> ・デザイン工学部生のための履修の手引き（冊子体、法政 HONDANA） ・Web シラバス ・成績調査願 	

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

1.6 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。

1.6①授与する学位ごとに、アセスメント・ポリシーを記入してください。

デザイン工学部では、学生の学修成果について、アドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）の3つのポリシーに照らして、下記のとおり検証を行う。

1. 入学段階において、プレースメントテストを実施し、アドミッション・ポリシーで求める基礎学力について測定する。また、初年次の理工系基盤科目の結果と対照し、基礎学力の向上を測定する。
2. 初年次外国語教育において、3回のTOEIC-IP受験をとおして、アドミッション・ポリシーで求める文化多様性を理解する上で必要となる言語能力の向上について測定する。また、英語教育委員会において随時教育内容の検証と見直しを行う。
3. 各年次において、「学習達成度評価システム」を用いて学生自身が履修状況を確認することにより、学習達成度を測定する。
4. 各年次において、学科毎に定めたGPA基準を満たさない学生に対して面談を行い、成績不振の原因を把握し、成績改善の有無を追跡測定する。
5. 基盤教育段階から専門教育段階あるいは卒業段階への移行年次において、学科毎に履修単位数に基づく進級基準を定め、進級に必要な学力を測定する。
6. 各種PBL科目での共同作業をとおして、ディプロマ・ポリシーで求める「社会の一員としての協調性」について測定する。
7. 演習・実習教育やスタジオ教育などにおいて、ディプロマ・ポリシーで求める「工学の知識体系を背景とした総合デザイン力」を測定する。また、成果発表の機会を複数設け「コミュニケーション力」を測定する。
8. その上で、卒業研究あるいは卒業研究・卒業制作を通して、ディプロマ・ポリシー全般にわたる能力について総合的な測定を行う。

1.6②上記のアセスメント・ポリシーは、分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標となっていますか。	はい
--	----

1.6③授与する学位ごとに、アセスメント・ポリシーに基づき学生の学習成果を把握していますか。	はい
--	----

1.6④学習成果を可視化していますか。	はい
---------------------	----

【根拠資料】

- ・Web シラバス
- ・各学科教室会議議事録
- ・達成度自己評価システム（都市環境デザイン工学科）

1.7 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

1.7①授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。	はい
-------------------------------	----

1.7②大学評価室による学生調査結果（入学前アンケート・1年生アンケート・卒業生アンケート）を組織的に利用していますか。	はい
--	----

【根拠資料】

- ・Web シラバス
- ・教室会議議事録、拡大教室会議議事録（都市環境デザイン工学科）、授業打ち合わせ会案内（システムデザイン学科）
- ・学習支援システム「お知らせ」（都市環境デザイン工学科）

(2) 特色・課題

以下の項目の中で、学部として特に「特色」として挙げられるもの、もしくは「課題」

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

<p>として今後改善に取り組んでいきたいものを選択し、記入をしてください。</p> <p>【教育課程・教育内容】【教育方法】【学習成果】それぞれの項目の中で「特色」または「課題」を選択し、内容について記入してください。</p>	
<p>【教育課程・教育内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育目標、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーの適切性と連関性の検証 ・学生の能力育成のための、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容の適切な提供 ・教育課程の編成にあたっての順次性及び体系性への配慮（個々の授業科目の内容・方法、授業科目の位置づけ（必修・選択等含む）への配慮が行われている。また教養教育と専門科目の適切な配置が行われている。） ・幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する教育課程の編成 ・初年次教育・高大接続への配慮 ・学生の国際性を涵養するための教育内容の提供 ・学生の社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を育成するキャリア教育の適切な実施 	
特色	教育目標、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーの適切性と連関性の検証
<p><学部共通></p> <p>各学科から選出された委員からなる質保証委員会を 2012 年度に立ち上げ、年 4 回の当委員会において、教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の適切性を学科相互に検証している。</p> <p><建築学科></p> <p>JABEE（日本技術者教育認定機構）による認証評価を受けている。学科内に JABEE 運営委員会を設置し、教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性を定期的に検証している。JABEE 運営委員会の活動と外部評価委員会による評価を資料とし、教室会議において関連事項の審議・検証を行っている。</p> <p><都市環境デザイン工学科></p> <p>教育目標、学位授与方針が社会情勢を反映した適切な内容となっているかを学科内に設けた学習・教育到達目標 WG において随時検証し、教育課程の編成・実施方針については、教育内容 WG においてその適切性の検証を行っている。さらに、2年に一度を目処に外部有識者数名からなる「教育評議員会」を開催し、標記事項の適正性についての評価を受けている。</p> <p><システムデザイン学科></p> <p>年度末（2022年度は2023年3月2日（木））に外部の兼任講師を含む授業担当者による授業打合せ会を開催し、教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の適切性を検証・確認している。</p>	
<p>【教育方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育上の目的を達成するための、効果的な授業形態の導入（PBL、アクティブラーニング、オンデマンド授業等） ・授業がシラバスに沿って行われているかの検証（後シラバスの作成、相互授業参観、アンケート等） 	
特色	教育上の目的を達成するための、効果的な授業形態の導入（PBL、アクティブラーニング、オンデマンド授業等）
<p><建築学科・システムデザイン学科></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ビルディングワークショップ」（建築学科）、「プロダクトデザイン 1～4」「プロジェクト実習・制作 1・2」（システムデザイン学科）などの実験・実習系授業：大型工作機械や 3D プリンタ、3D スキャナ等を活用した造形実習教育 ※ 機器機材の適切な運用管理にあたっては、造形製作室運営委員会を設置し、利用調整を図るとともに、定期的に教務助手や教育技術嘱託を常駐させることで安全管理に努めている。 	

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

< 建築学科 >

- ・「デザインスタジオ 5・6」: HAL (Hosei Active Learning) スタジオを活用した少人数制設計教育 (アクティブラーニング)
- ・「フィールドワーク」: グループワークによる街区や建物の調査、および図面・模型の製作 (PBL 型フィールドワーク)

< 都市環境デザイン工学科 >

- ・「デザインスタジオ」: 基礎立体造形の訓練 (アクティブラーニング)
- ・「橋のデザイン実習」: 橋梁の計画と模型製作 (アクティブラーニング)
- ・「鋼構造学及び演習」: 鋼構造の計画と模型製作 (アクティブラーニング)
- ・「RC 構造学及び演習」: 配筋模型の製作 (グループワークによるアクティブラーニング)
- ・「プロジェクトスタジオ」: 対象地区に対する現地調査・課題抽出に基づく改善策の図面化と模型製作 (PBL 型フィールドワーク)

< システムデザイン学科 >

- ・「ゼミナール 1」: 全学生による複数のプレゼミの受講 (多分野融合研究の基礎構築)
- ・「プロジェクト実習・制作 1・2」: 製品企画、設計、製造、流通に至る「ものづくり」の過程を総合的・横断的に実習 (分野横断型 PBL)
- ・「応用プロジェクト 1・2」: 本格的な製品企画と、その具現化 (PBL) および作品の学外コンペティションへの積極的な応募の奨励

【学習成果】

- ・成績評価及び単位認定を行うための制度や学位授与の実施手続き及び体制についての適切な運用。
- ・アセスメント・ポリシーに基づいた学習成果を把握する取り組み
- ・アセスメント・ポリシーに基づき学習成果を定期的に検証し、その結果をもとにした教育課程およびその内容、方法の改善・向上に向けた取り組み

特色

成績評価及び単位認定を行うための制度や学位授与の実施手続き及び体制についての適切な運用

< 学部共通 >

- ・成績の評価方法と評価基準を履修の手引きや Web シラバスに記載し、学生へ明示している。
- ・学生からの成績評価に対する疑義に対しては成績調査により対応しており、必要に応じて解答用紙や提出レポート等を開示し、採点理由を説明することとしている。

< 建築学科・都市環境デザイン工学科 >

- ・JABEE 運営委員会を中心に成績評価・単位認定の妥当性を検証している。

< 都市環境デザイン工学科 >

- ・全ての授業について「採点・評価結果報告書」(成績原簿)を作成・保管し、GPCA や習得率を確認している。また、必要に応じて成績分布を確認するシステムを採用している。

< システムデザイン学科 >

- ・グループワーク等、各人のグループ成果への貢献度の定量評価が難しい科目において、成績評価項目にグループ内での自己・相互評価の結果を含めている。

その他、上記項目以外で学部として「特色」として挙げられるもの、または「課題」として今後改善に取り組んでいきたいものがありましたら記入してください。

特色

【教育課程・教育内容】

- ・学生の能力育成のための、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容の適切な提供

< 建築学科 >

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

2013 年度に大学院建築学専攻とともに JABEE（日本技術者教育認定機構）より教育プログラムの認定を取得しており、この認定によって UNESCO-UIA（国際建築家連合）提唱の建築教育憲章に基づく国際的な建築教育プログラムとの同等性が保証されている。

<都市環境デザイン工学科>

教育プログラムは、工学部時代の 2004 年より JABEE に認定されており、国際社会が求める技術者人材を輩出する教育内容となっている。

- ・教育課程の編成にあたっての順次性及び体系性への配慮

<外国語科目と基盤科目>

1 年次から履修可能な科目を多く配置しながらも、一部の科目については、授業内容の専門性・高度性を考慮して 2 年次または 3 年次以上に配置している。専門科目に関しては、導入科目、基礎科目、展開科目の順に、専門性が学年進行とともに段階的に高まる教育課程を編成している。また、科目区分ごとに必修科目や選択必修科目を設定し、進級・卒業要件を定めている。

<専門科目系>

建築学科では 5 つの系を、都市環境デザイン工学科とシステムデザイン学科ではそれぞれ 3 つの系を設定しており、各学科とも系ごとにカリキュラムツリーを作成して科目間の年次時系列的なつながりを可視化している。また、学科ごとに各科目とディプロマ・ポリシーとの対応を示すカリキュラムマップを作成している。カリキュラムツリーとカリキュラムマップは履修の手引きと学部ホームページに掲載し、学生がカリキュラムを体系的に把握し、適切な履修順序を確認することができるようにしている。

- ・幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する教育課程の編成

<教養教育（基盤科目）>

文化や歴史、社会、経済に対する包括的な理解を促すとともに、社会的責任を自覚した実践的な職業倫理を鍛えるものとして、具体的には以下のように実施している。

<外国語教育：英語教育>

TOEIC を熟達度指標とした実践型とし、外部の専門教育組織に委託している。中国語、イタリア語については、語学教育をベースに異文化理解を目指す科目として捉えている。なお、英語教育に関しては、学部内に英語教育委員会を設置し、外部委託先と協議しながら審議・検討を行っている。

<理工系基盤教育>

学科ごとに専門教員が担当し、専門科目との一貫性を確保している。

<その他の基盤教育>

デザイン工学の実践的側面を補う観点から、総合系、人文社会系の科目を取り揃え、1～4 年次配当科目を中心に、一部の科目を 2 年次以降に配置している。

- ・初年次教育・高大接続への配慮

<学部共通>

少人数制の初年次導入科目を設け、大学における学びに対する意識付けや動機付けを行っている。また、入学時における英語、数学、物理の学力を把握するため、プレイスメントテストを実施している（2020 年度は COVID-19 の影響のため中止とし、2021 年度は Web 試験により実施した。）

< 建築学科 >

「スプリングセミナー」において、数学・物理の知識が不十分な学生に対する補習授業を実施している他、大学での学び方に関するガイダンスや、ゼミ単位でのまち歩きを通じて、学科で学ぶことの目標を考えさせている。

< 都市環境デザイン工学科 >

「導入ゼミナール」において、コンピュータリテラシー等の基礎教育を行っている。また、1年生を対象とした力学系・数学系科目では高校数学の復習を適宜講義内容に取り入れている。

< システムデザイン学科 >

「導入ゼミナール」において、図書館ガイダンスやマナー講座を実施するとともに、フィールドワークやグループワーク形式の授業を取り入れている。数学や力学の必修科目では、高等学校において数学 III や物理を履修していない学生に配慮した授業内容としている。また、「システムデザイン入門」において、全専任教員からシステムデザインという学問分野を分野横断的に解説し、学生がそれぞれの立場から学科で学ぶ目標や意味を見つけ、キャリア形成の重要性などを自覚するようにしている。

- ・ 学生の国際性を涵養するための教育内容の提供

< 学部共通 >

外国人等客員教員の制度を活用して積極的に外国人教員を招聘し、外国人教員による「特別講義」等の授業を開講している。2020年度から2022年度まで外国人等客員教員1名が着任している。

< 建築学科 >

2年次に外国人教員担当の「Design Basics in English」をグローバルオープン科目／学部科目として主催し、全学および他学科の学生と交流しながら、建築のデザインをベースに英語でデザインの基礎を学べるようにしている。

< 都市環境デザイン工学科 >

2年次に「工業英語」を、3年次には「工業英語実習」を配置し、実践的英語の教育を行っている。「工業英語」では試験科目として工業英検3級、4級を導入している。

< システムデザイン学科 >

2年次に外国人教員担当のグローバルオープン科目／学部科目「Design Basics in English」を配置している。

- ・ 学生の社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を育成するキャリア教育の適切な実施

< 学部共通 >

各学科において、初年次配当の導入科目の中で卒業後のキャリアパスを紹介している。また、実社会の現状・課題等をキャッチアップするため、兼任教員による授業を多く導入している他、実務で活躍する社会人による特別講演会を開催している。

< 建築学科 >

「スプリングセミナー」（1年次）において「アーキテクトマインド」の冊子を配布し、建築を学ぶことの意義を説くとともに、卒業生の協力を得てキャリアパス教育の一端を担う内容を組み込んでいる。カリキュラムは、建築士試験の受験資格として必要な指定科目群と対応づけられた科目群で構成され、職業的自立を図るために必要なキャリア教

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

育が実践されている。また、授業担当教員は建築士資格や実務経験を有する実務家教員が過半を占めており、実務の観点を踏まえた授業が積極的に行われている。

<都市環境デザイン工学科>

「導入ゼミナール」(1年次)および「社会基盤概論」(2年次)にて実社会における都市環境デザインの役割の説明を、「基礎ゼミナール」(2年次)にてキャリアパスとロールモデルの説明やキャリア紹介ビデオの視聴、技術士説明会をそれぞれ行っている。また、「ゼミナール」(3年次)におけるキャリア指導(キャリアセンターによる講演)、同窓会(法土会)との懇談会(キャリアデザインセミナー)を実施している。

<システムデザイン学科>

「システムデザイン入門」(1年次)の一環として、キャリアセンターの協力を得てキャリアデザインに関する講義を実施するとともに、卒業生をゲスト講師に招いた講義を行っている。また、「ゼミナール1」(3年次)においてキャリアアップ講座を実施している。

<都市環境デザイン工学科、システムデザイン学科>

3年次に選択科目「インターンシップ」を配置し実務体験を促している。

【教育方法】

- ・授業がシラバスに沿って行われているかの検証

<建築学科、都市環境デザイン工学科>

授業実施の証拠資料(配布資料、講義記録、学生提出物、補講資料)をJABEE室において保管し、JABEE運営委員会を中心に検証している。

<学部共通>

- ・教室会議、拡大教室会議による授業エビデンス提出状況を確認している。
- ・次期授業改善計画を作成し、授業内容・シラバスを継続的に再点検・見直している。
- ・複数教員科目に関しては、授業終了時・開始時における打合せにより授業内容・シラバスの再点検・見直しを施している。
- ・「デザインスタジオ」「フィールドワーク」等の実習授業では、成果発表・展示を通して検証している。

【学習成果】

- ・アセスメント・ポリシーに基づいた学習成果を把握する取り組み

<学部共通>

英語教育において、TOEIC-IPのスコアによる到達目標を設定している。卒業研究や卒業制作において、学科ごとに実施する審査会を通して学習成果を総合的に把握しており、成果が不十分と判断される学生については再審査や論文再提出の機会を設けている。

<建築学科>

- ・「デザインスタジオ」などの演習科目において、科目内でいくつかのステップに分けた小課題を設定し、順番に学習していくことで最終的な到達目標を明確化している。課題ごとの講評会は全員が参加することで、学生自身が振り返りを行い、達成度を確認している。
- ・卒業研究においては、学生全員が発表し、全専任教員が審査員として参加する発表審査会を開催し、卒業論文を講評するとともに、優秀な研究に建築研究賞を授与する一方、不十分な研究をフォローアップしている。

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

・卒業制作は、全専任教員の参加による審査会を開催して達成度を確認するとともに、学内教員によるオープンジュリー（学科内での講評会）を開催して講評を行うとともに、外部審査員を加えた公開講評会を開催して優秀作品を表彰している。

<都市環境デザイン工学科>

学部共通の達成度自己評価システムに学科で必要な項目を追加した Excel 入力シートを学生に配布しており、学生は年 2 回このシートに記入して教員に報告し、教員はその報告内容を確認する取り組みを行っている。これにより、学生自身に学習成果を客観的に認識させている。

<システムデザイン学科>

システムデザイン学科の 3 つの系の学習成果の集大成として卒業研究・卒業制作を位置づけている。成果の内容は、指導教員以外も参加した横断的な審査会を開催し、審査の結果として 5 名程度については賞を付与している。また、卒業制作については、優秀な作品をセレクトした作品集として製本し、学外の関係者に配布しフィードバックを得るよう努めている。奨学金やゼミ所属、就職、大学院進学などに関して GPA に基づく基準を設けて順位付けを行い、評価している。応用プロジェクトや卒業研究・卒業制作等で具体化された作品は、積極的に学外コンペティションへ応募することを奨励し、毎年、いくつかの作品が賞を受賞している。

・アセスメント・ポリシーに基づき学習成果を定期的に検証し、その結果をもとにした教育課程およびその内容、方法の改善・向上に向けた取り組み

<学部共通>

市ヶ谷田町校舎内の展示スペースに学生による優秀作品を展示し、学習成果を可視化している。

<建築学科>

- ・IAE サーバー（JABEE サーバー）の RFC（リクエスト・フォー・コメント）機能により、優秀作品の公開と学生による研究成果や作品の発信を図っている。
- ・IAE サーバーを利用して学生がポートフォリオ（e-Portfolio）を作成できるようにしている。
- ・卒業論文集を刊行し、卒業研究の成果を可視化している。
- ・卒業制作を含む設計作品をとりまとめた作品集「HOSEI STUDIOWORKS」を刊行し、学生、教員他に配布すると共に学科会議室の前に常設し、いつでも閲覧できるようにしている。

<都市環境デザイン工学科>

- ・デザインスタジオや景観デザインに関する学生コンペでの優秀作品を展示するとともに、業績をパンフレット・学科ホームページ・教室棟展示棚に公開している。
- ・デザインスタジオ、CAD 実習等の設計演習系科目の作品をイヤーズブックとしてとりまとめている。
- ・卒業論文概要を作成し、次年度の在學生に配布している。また、学科ホームページの各研究室の卒業論文・修士論文の一覧において卒業論文概要を学内に開示している。
- ・学会などにおける学生の受賞を学科ホームページにて報告している。
- ・達成度自己評価システムによって学習・教育到達目標毎の達成度、GPA、進級・卒業・技術者資格取得に要する取得単位充足状況を定量的に評価している。
- ・卒業研究は審査会に加え、学習・教育到達目標 WG を中心に作成し、その妥当性を教室会議で継続的に審議しているルーブリック表を用いて評価している。

<システムデザイン学科>

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

- ・卒業研究・卒業制作の概要集を作成している。
- ・大学院システムデザイン専攻と合同で作品集を作成している。電子版を学科ホームページで公開するとともに、2021年度は冊子体を新入生に配布した。
- ・演習・実習系科目の優秀作品、および学内外の各種コンペティションや学会等の受賞状況を学科ホームページで公開し、学内展示スペースでパネル展示を行っている。

課題

2 学生の受け入れ

(1) 点検・評価項目における現状

2.1 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

2.1①学部ごとに学生の受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)を記入してください。

デザイン工学部

デザイン工学部は、以下のような素養・資質を備えた学生を受け入れる。

1. 入学後の学修に必要な基礎学力を有している。
2. 高等学校で履修する各科目の内容を理解し、高等学校卒業程度の学力を有している。
3. 学部の教育目標やディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを理解している。
4. 言語能力と文化多様性を基盤とした表現力を修得することに積極的である。

大学・学部のポリシーに基づき、デザイン工学部の各学科では、以下のように詳細を定めている。

建築学科

建築学科は、以下のような素養・資質を備えた学生を受け入れる。

1. 文理にまたがる学問分野を広く深く学ぶことを通じて自己研鑽に努めたいと考えている。
2. 人々の健康で安心な生活、並びに社会の安全と公正について深い関心がある。
3. 人々の生活環境と社会システムの発展向上のために、建築家、建築技術者として専門的立場から何らかの貢献をしたいと考えている。
4. デザイン力を磨き、コミュニケーション力を深め、建築を含む幅広い分野に対し積極的に関与したいと考えている。
5. いかなる状況が顕現しようと、地球と世界の将来に希望を持ち、そこに自己実現の夢を抱いている。

都市環境デザイン工学科

都市環境デザイン工学科は、以下のような素養・資質を備えた学生を受け入れる。

1. 法政大学の歴史・伝統と大学憲章に対して十分な理解を備えている。
2. 地球的視点の下に、自然を愛し人類の幸福に貢献する意欲を備えているとともに、公平・誠実で不偏の態度を保持できる。
3. 自然界や社会基盤施設における諸現象を理解・分析するために必要な自然科学の基礎知識と分析能力を習得する意欲がある。
4. 地球環境の変化ならびにグローバル社会の多様性・地域性を理解し、様々な制約条件下で技術的課題を解決するための思考力・判断力を備える意欲がある。
5. 特定分野に限らず人文・社会科学を含めて広範な科学分野に興味を持ち、それらの知識を習得する意欲がある。
6. 様々な地域社会や個人に対し技術者としての説明責任を果たすだけの潜在的表現能

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

力を有している。	
システムデザイン学科 システムデザイン学科は、以下のような素養・資質を備えた学生を受け入れる。	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 法政大学の歴史・伝統と大学憲章への深い理解を備えている。 2. 基本的な学力を持っており、勉学の習慣を身につけている。 3. 文系的素養も持ち、豊かな感性を備えている。 4. デザインだけでなく、工学的視点から客観的に物事を判断・評価することに関心がある。 5. 創造性豊かで、公正な価値観を持っている。 6. 人間をデザインの中心に据えた「もの・システムづくり」に興味があり、それらの知識を習得する意欲がある。 	
2.1②上記のアドミッション・ポリシーには、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえた、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像や、入学希望者に求める水準等の判定方法が明確に示されていますか。	はい
2.1③上記のアドミッション・ポリシーを公表していますか。	はい
【根拠資料】	
https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/ukeire_hoshin/gakubu/	

2.2 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

2.2①アドミッション・ポリシーに基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制をどのように適切に整備していますか。また、入学者選抜をどのように公正に実施していますか。
学部長会議や入学センターから得られる情報に基づいて、学部執行部で学生募集及び入学者選抜の制度や体制について方針を定め、運営委員会、教授会で承認している。多種多様な入学経路を経た学生の入学後の学習成果を確認し、継続的な点検と改善を図っている。入学者選抜面接や書類審査は複数名の教員で担当し、その結果を学部内で共有することで公正に実施している。

2.3 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

2.3①【2023年5月1日時点】学部・学科における入学定員充足率の5年平均又は収容定員充足率は、下記の表1の数値を満たしていますか。	はい
---	----

2.4 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

2.4①上記項目において【いいえ】と回答した場合は、その理由と改善に向けた今後の取り組みについて記入してください。

表 1

学部・学科における過去5年間の入学定員に対する入学者数比率の平均	0.90～1.20 未満
学部・学科における収容定員に対する在籍学生数比率	0.90～1.20 未満

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

3 教員・教員組織

(1) 点検・評価項目における現状

3.1 大学の理念・目的に基づき、大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。

3.1①学部の求める教員像および教員組織の編成方針を記入してください。

デザイン工学部の教員には、学部の理念である「総合デザイン」の理解を前提に、学部や学科のディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーを踏まえ、教育目標に向けた高い相互理解力を保有していることが求められる。また横断的な知識の融合による多面的な観点から物事を検討し、理解できる学生の育成と支援が求められる。このような学部としての教員像を踏まえたうえで、各学科では以下のような方針の下、教員組織の編制を行なっている。

<建築学科>

学習・教育目標の達成に向け、5つの専門分野から構成される教員組織、すなわち、①建築デザイン、②建築史・都市史、③環境工学・建築設備、④建築構造、⑤建築構法・施工の各分野に専任教員を配置し、それぞれが先端的な研究能力を有すると同時に、相互の分野を横断的に解釈・実行できる教員を求めている。

<都市環境デザイン工学科>

学習プログラムに示される目標を適切な教育方法によって展開し、教育成果をあげうる能力をもった教員と教育支援体制を求めている。教員の構成は、3つの系と呼ぶ専門分野、すなわち、①都市プランニング系、②環境システム系、③施設デザイン系それぞれに教育目標に応じて適切に専任教員を配置するとともに、教務助手や経験豊かな助教・任期付き教員などを含めて多彩な教員組織を構成していく。また、専任教員は研究とともに、教育さらには学校運営事務の能力をバランスよく備えていることを求めている。

<システムデザイン学科>

学習・教育目標の達成に向け、3つの系から構成される教員組織、すなわち、①クリエーション系、②テクノロジー系、③マネジメント系の各分野に専任教員を配置し、それぞれが先端的な研究能力を有すると同時に、相互の分野を横断的に解釈・実行できる教員を求めている。また、専任教員は研究とともに、教育さらには学校運営事務の能力をバランスよく備えていることを求めている。

3.2 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。

3.2①学部の教員組織の編制は、理念・目的、教員組織の編制方針に整合していますか。	はい
3.2②教員組織の規模について、教育研究上必要となる数の専任教員がいますか。	はい
3.2③専任教員の専門性や、主要科目への配置など、教育を実施するうえでどのような体制をとっていますか。	<ul style="list-style-type: none"> 各学科とも、複数の専門系により教育分野全域を偏りなく網羅しており、基礎科目から卒業研究に至るまでの系統だった系別履修モデルで明示されるように、カリキュラムに対応して適材適所に教員を配備している。 学部のミッションである「総合デザイン」に基づき、専任教員は各分野において先端的な研究能力を有すると同時に、分野横断的にカリキュラムを把握できる人材としている。これら専任教員を各系に原則複数配置して系相互のつながりを強化している。 専任教員は兼任講師の教育パートナーとして業務上の課題解決に対して協働するとともに、年1回以上の講師懇談会を開催するなど、教育目標の達成に向けて全専任・兼任

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

教員が一体的に教育を進めている。また、各学科分野に精通した教育技術員を配置し、実習教育を支援する仕組みとしている。

3.3 教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。

3.3①教員の募集、採用、昇任等の手続きや運用に関する規程は整備されていますか。	はい
3.3②上記の規定は、公正性、適切性が担保されるよう適切に運用されていますか。	はい
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> ・「デザイン工学部教員適格審査内規」(D工規定 006号) ・「デザイン工学部教授・准教授および専任講師資格内規」(D工規定 008号) ・「法政大学デザイン工学部の教務助手に関する内規」(D工規定 017号) <p><建築学科></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教室会議議事録 <p><都市環境デザイン工学科></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教室会議ならびに拡大教室会議議事録 <p>教室会議規定</p> <p><システムデザイン学科></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教室会議議事録 	

3.4 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。

3.4①学部(学科)内のFD活動は組織的に行われていますか。	はい
3.4②上記項目について【はい】と回答した場合は、2022年度のFD活動の実績(開催日・テーマ・参加人数)を記入してください。	
<p><デザイン工学部></p> <p>1)FD研修「オンライン授業におけるコミュニケーションの工夫」(福井恒明教授), 2022年9月27日(火)15:00~15:30, 専任教員25名</p> <p>2)FD研修「剽窃チェックソフトと学習支援システムの活用について」(教育支援課), 2022年11月8日(火)15:00~15:30, 専任教員29名</p> <p><建築学科></p> <p>1)3名の外部審査員を招聘し、卒業設計優秀作品公開講評審査会を開催し、総評を作品集「HOSEI STUDIOWORKS」に掲載、配布を行った。</p> <p>2)デザインスタジオ連絡会議を開催し、専任・兼任教員による横断的な意見交換を行い、各スタジオ間連携及びデザイン教育全体の俯瞰的な授業内容の点検を年度末(2023年3月22日)に実施した。</p> <p>3)JABEE建築分野審査・受審セミナーが、2023年3月8日(水)13時~15時に建築学会(オンライン)にて実施され、専任教員1名参加した。</p> <p><都市環境デザイン工学科></p> <p>1)第1回自己点検懇談会およびグループディスカッションへの参加、2022年6月16日、対面、専任教員1名</p> <p>2)JABEE受審校研修会、2022年6月18日、オンライン形式、専任教員1名</p> <p>3)建設業で活躍している卒業生による講演及び意見交換会開催、2022年12月15日、対面、専任教員1名</p> <p>4)学生相談室主催:2022年度教職員対象研修会「発達に偏りのある学生にどう関わるかー基礎から日常的支援までー」の視聴、2022年12月20日、オンデマンド、専任教員1名</p>	

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

<p>5)2022 年度第 3 回 FD 教員セミナー「学生が選ぶベストティーチャーによる授業運営の工夫 vol.1.2」への参加、2023 年 3 月 2 日、オンライン形式、専任教員 1 名</p> <p>6)「第 4 回世界エンジニアリングデー記念シンポジウム」への参加、2023 年 3 月 4 日、オンライン形式、専任教員 1 名</p> <p><システムデザイン学科></p> <p>1) 兼任教員を交えた授業打ち合わせ会の実施 オンラインと対面のハイブリッド形式で実施日：2023 年 3 月 2 日オンライン実施、参加者：53 名(オンライン 43 名、対面 10 名)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2022 年度の授業実施状況の振り返りと課題の抽出 ・2023 年度の授業実施計画の確認と課題の抽出 	
3.4③学部（学科）内において研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るための方策を講じていますか。	はい
3.4④上記項目で【はい】と回答した場合は、研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るための取り組みの実績（開催日・テーマ・参加人数等）について記入してください。	
<p><デザイン工学部></p> <p>学外組織との共同研究や受託研究、寄付研究等を行うことにより、産官学連携による教育研究の推進を図るとともに社会への研究成果の還元を行っている。また、多くの教員が官公庁や公共団体の設置する委員会等に招聘され、行政施策の策定等に参加している。本学部の教員が主体となって活動している「エコ地域デザイン研究センター」および「江戸東京研究センター」と協力して、公開講座などを実施している。また、多くの教員が学会などに協力して、シンポジウムなどの講師を務めている。</p> <p><建築学科></p> <p>例年 5 月下旬に、学科同窓会と連携して、専任教員全員、1 年生全員、その他の学年の学生有志、卒業生が「ウォークラリー」と称する街歩きを行っている。「ウォークラリー」では、特徴ある建築や街の姿に触れることにより、学習の動機付けを図っている（2022 年度は、コロナ禍により、ゼミごとに担当教員の判断にて縮小して実施）。その他、各ゼミでの指導実習（ゼミ活動）により、多数の社会貢献に関わる活動を行っている（詳細は「指導実習による出張願」に記載している）。また、複数の学外コンペティション等への応募の実績がある。</p> <p><都市環境デザイン工学科></p> <p>卒業生組織と連携して、教員及び学外有識者の教育研究成果に基づく「社会工学セミナー」を毎年実施している（2022 年は 11 月 14 日開催・於：市谷田町校舎・講演テーマ：建設 DX 体現への調整（教員）、地方行政と土木技術者（江戸川区副区長）・参加人数：80 人）。また、2022 年 3 月から 8 月にかけて実施された 2021 年 7 月の熱海市伊豆山地区の土砂災害に関する復興委員会では、2021 年度に当学科の学生により制作した被災地の模型が委員会の場で活用され、それに関して当学科の学生数名も委員会に参加するとともに担当課職員と意見交換を行った。学科の専任教員 1 名は副委員長として当該委員会に参加している。さらに、2022 年 5 月から 9 月にかけて、沼津市内膳堀（香貫用水、2022 年に世界かんがい施設遺産に登録）周辺の環境整備に関し、当学科の教員 1 名学生 10 名による現地調査やヒアリング、グループディスカッションを行った。その上で環境改善提案を作成し、住民等を対象とした公開の場でプレゼンテーションと質疑応答を実施した。本件はデザイン工学部と沼津市が締結した「景観・まちづくり等に関する協定」に基づくものであり、提案内容については沼津市による今後の整備に活かされる予定である。</p> <p><システムデザイン学科></p>	

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

加賀市との教育研究事業の可能性について意見交換を行った。専任教員7名が現地訪問
 12月14、15日：参加者7名、3社3団体。法政大学後援会北陸ブロック3県会長と、ものづくり地域と学科の連携についての協議も開始した。その他、大学での成果を積極的に学外コンペティションやビジネスコンテスト等に応募し入賞、入賞後も主催者や企業との関係を継続させており、社会実装の機会を増やすようにしている。また、卒業研究、卒業成果の展示会として、テクノフロンティア 2022・モーションエンジニアリング展（2022年7月20日～22日、東京ビッグサイト、来場者約17,000名）、安積ゼミ卒業制作展 2023 THE MOMENT（2023年3月10日-12日（Light Box Studio 青山、来場者約300名）、PROVOCATIONS：安積ゼミ・秋田公立美術大学合同展覧会（2022年11月25日-27日、TIERS GALLERY by arakawagrip 表参道、来場者数約200名）、interiorlifestyle Tokyo：新ブランド・新製品発表会（2022年6月1日-3日、東京ビッグサイト、来場者数約16500名）、山田ゼミ卒業制作展 2023 発進（2023年3月10日-12日、Chromatic Gallery 明治神宮前、来場者数約150名）を開催した。

4 学生支援

(1) 特色・課題

以下の項目の中で、学部として特に「特色」として挙げられるもの、もしくは「課題」として今後改善に取り組んでいきたいものを選択し、記入をしてください。

【学生支援】

- ・学生の能力に応じた補習教育、補充教育
- ・学生の自主的な学習を促進するための支援
- ・学習の継続に困難を抱える学生（留年者、退学希望者等）への対応
- ・成績不振の学生の状況把握と指導
- ・外国人留学生の修学支援
- ・オンライン教育を行う場合における学生への配慮（相談対応、授業計画の視聴機会の確保等）

特色	学生の能力に応じた補習教育、補充教育
----	--------------------

<学部共通>

全教員がオフィスアワーを設定し、学生が相談に訪れやすい環境を整備している。また、2022年度より授業担当者のメールアドレスを公開し、学生が個別に教員へ連絡が可能な体制を整えた。

<建築学科>

3年次のゼミ所属時に、指導教員が面談により学習指導を行い、その後もゼミ活動を通じて、継続的に指導を行っている。新入生には、スプリングセミナーにおいて、担当教員が個別に学習支援を行うとともに、補修教育を行っている。その他の学年の成績不振学生には学科主任が個別面談を行い、学習指導を行っている。

<都市環境デザイン工学科>

学習達成度自己評価システムを利用した学習達成度の確認作業によって学生自らが学修実績を振り返るとともに、学生からの報告に基づいて各学生の担任教員は達成度や学習効果を把握・確認している。春学期・秋学期終了時に成績不振者や留級・留年者の状況を教室会議で確認し、担任教員が個別面談により学習指導を行っている。また、外国語科目（英語）では習熟度別クラス編成を実施している。

<システムデザイン学科>

学習達成度自己評価システムを導入し、学生が自ら「目標設定」「振り返り」「達成度評価」を行うことを支援・促進している。また、各種コンペティションに関する個別相談や、成績不振者を対象とした個別面談を実施している。

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

その他、上記項目以外で学部として「特色」として挙げられるもの、または「課題」として今後改善に取り組んでいきたいものがありましたら記入してください。

特色

・学習の継続に困難を抱える学生（留年者、退学希望者等）への対応

<建築学科>

春学期・秋学期終了時には成績不振者や留級・留年者の状況を把握し、ゼミ所属学生の場合は指導教員が、それ以外の学生には学科主任が個別面談による学習指導を行っている。

<都市環境デザイン工学科>

学習達成度自己評価システムを利用した学習達成度の確認作業によって学生自らが学修実績を振り返るとともに、学生からの報告に基づいて各学生の担任教員は達成度や学習効果を把握・確認している。春学期・秋学期終了時に成績不振者や留級・留年者の状況を教室会議で確認し、担任教員が個別面談により学習指導を行っている。また、外国語科目（英語）では習熟度別クラス編成を実施している。

<システムデザイン学科>

学習達成度自己評価システムを導入し、学生が自ら「目標設定」「振り返り」「達成度評価」を行うことを支援・促進している。また、各種コンペティションに関する個別相談や、成績不振者を対象とした個別面談を実施している。

・成績不振の学生の状況把握と指導

<学部共通>

・取得単位数やGPAの値がある一定水準以下の学生、ならびに学期末に留級した学生に対して、教室会議で対応を協議し、進級・卒業に支障が生じることがないように、学科主任あるいは担当指導教員が適宜面談指導を実施している。

・成績不振学生に対する学修指導制度については教授会で確認・共有している。

・必要に応じて保証人との面談を実施する。

・外国人留学生の修学支援

<学部共通>

・初年度の導入ゼミナールを通じた導入教育。

・学部共通の基盤科目として留学生科目（一般数学、日本文化論、日本語等）を設けて外国人留学生の修学支援を実施。

・学内チューター制度の活用による修学支援の他、TA（特に外国人留学生）による相談体制の整備。

・全教員がオフィスアワーを設定し外国人留学生の個別相談に対応。

課題

5 教育研究等環境

(1) 点検・評価項目における現状

5.1 研究倫理を遵守するための必要な措置を講じ、適切に対応しているか。

5.1①学部として研究倫理の向上及び不正行為の防止等について、公正な研究活動を推進するための適切な措置を講じていますか。	はい
--	----

【根拠資料】

2023年度学部生研究倫理教育実施報告書

III 2022年度中期目標・年度目標達成状況報告書

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】	
中期目標	1) デザイン工学部基盤教育方針を反映したカリキュラムの再整備を行う 2) デザイン工学部全体の英語教育のあり方について検討する	
年度目標	1) 基盤教育科目を個別に具体化し、カリキュラム全体の再構築を図る 2) 高学年の英語教育のあり方を検討する	
達成指標	1) 基盤教育方針を盛り込んだ 2023 年度新カリキュラムの策定を行う。 2) 英語教育に関して、既存のオンラインサービスやオンラインコンテンツの活用方法を検討する	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	1) 基盤教育方針に沿って基盤科目を開設し、2023 年度新カリキュラムを策定した。 2) 英語教育委員会にて、SD 学科による英語教育オンラインサービスの活用検討報告を共有し、デザイン工学部が目指すべき高学年英語教育の方針について活発な議論を行った。
	改善策	1) 特になし 2) 英語教育に関しては低学年と高学年の連携も含めて、デザイン工学部に相応しい教育方針の検討を継続的に実施する。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	1) 順調に基盤科目を設置し、新カリキュラムを策定したことは評価できる。 2) 理系英語教育にふさわしい教育方針を明確にし、高学年教育の位置づけを定めることが望まれる。
改善のための提言	1) 今後は新カリキュラムの教育効果の点検を定期的に変更されること 2) 次のカリキュラム改訂に向けた英語教育全体の点検と改善を計画的に推進する必要がある。	
評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】	
中期目標	1) 造形製作教育の中期的な運用・更新計画を検討する 2) 対面とオンライン教育を併用した実効的な教育方法を検討する	
年度目標	1) 造形製作室における学科毎の利用頻度や利用器材を把握する 2) 授業内容や履修人数等を考慮した上で、学部・学科のオンライン教育基本方針の検討を開始する	
達成指標	1) 造形製作室の中期的な運用計画策定に着手する 2) オンライン授業の活用と教室利用の実態を把握し、現状の課題を把握する	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	1) 造形製作室運営委員会にて安全管理や薬品管理などを点検し、学科ごとの造形製作室利用ルール案を作成した。また、中期的運用計画の策定に向けて利用実態を把握するためのアンケート調査項目を整理した。 2) 「新型コロナウイルス感染拡大に伴う授業実施に関するアンケート」（各期計 4 回）と卒業生アンケートにより現状把握と課題を抽出した。
	改善策	1) 来年度はアンケート調査を実施し、中期的な運用計画の具体的な検討を行う。

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

		2) 来年度より教室が通常利用に戻るが、引き続きオンライン授業を継続する科目の実態把握とその教育効果についての検証を継続する。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	1) アンケートの実施が次年度に先送りされたことは残念だが、中期運用計画の策定に向けたプロセスは着実に実施されている。 2) アンケートを通してオンライン授業に関する学生の意向を継続的かつ詳細に把握していることは評価できる。
	改善のための提言	1) アンケート調査の実施により造形製作室の利用実態を把握し、中期運用計画を具体化させることが望まれる。 2) オンライン授業の有用性を生かした教育点検を学部全体で共有することが好ましい。
	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
	中期目標	学部横断的な学習成果の共有と評価方法を検討する
	年度目標	演習・実習系科目における学習成果について学部横断的な評価方法を共有する仕組みを検討する
	達成指標	演習科目の講評会などに教員が学科横断的に参加して評価方法の現状把握と相互理解を深める
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	B
	理由	演習科目において、学年および学科横断的に参加可能な講評会を実施した。
	改善策	来年度以降は開催日程や告知方法など詳細な事前調整を行い、より活発な学科間交流と意見交換を促す。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	学科横断的な講評会が実施されたことは評価できるが、学科間を横断して学習成果の共有や議論が十分に行われたとは言い難い。
	改善のための提言	演習・実習科目における評価方法に対する学科間の議論や共有が深まり、より多様な視点や価値観がデザイン教育に反映されることを期待したい。
	評価基準	学生の受け入れ
	中期目標	デザイン工学部の教育の特徴や魅力を独自に発信する方法を検討する
	年度目標	学習成果やオンライン授業、レクチャーなどの公開、またはこれらに代わる施策を検討する
	達成指標	学習成果やオンライン授業、レクチャーなどの公開状況を把握し、課題を抽出する
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	学生の受賞情報を集約し、スムーズにホームページへ掲載する手順を整理した。また、デザインフォーラムを Zoom 配信し、学外参加者の参加状況を把握している。
	改善策	学生の受賞情報など、大学全体のホームページへ情報を提供する手順を整理する。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	学生の活躍の様子や学部・学科主催の講演会を学外に配信するなど、より積極的な情報発信を通して教育の特徴や魅力が広くアピールできるように継続的に取り組まれていることは評価できる。
	改善のた	多様な資質を備えた学生を幅広く迎え入れるための方策について、情報

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

	めの提言	発信以外の取り組みも含めて、より一層の多面的な検討を行うことが望ましい。
	評価基準	教員・教員組織
	中期目標	2021年度に策定した基盤教育方針に沿った専任教員の配置と、適切な年齢構成への移行
	年度目標	教員組織の年齢構成、分野のバランスを考慮した適切な新規採用人事を行う
	達成指標	・基盤教育を担当する教員の採用人事を行う ・退職教員の後任人事を進める
年度 末 報 告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	2023年度から基盤教育を担当する教員を1名採用し、退職教員の後任人事による1名の採用も行った。年齢構成的にもバランスの取れた人事である。
	改善策	引き続き基盤教育を担当する3名の教員採用を進めていく。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	後任人事1名、基盤科目を担当する教員1名の採用を行ったことは評価できる。
	改善のための提言	基盤教育を担当する教員3名の新規採用が着実に遂行されることが望まれる。
	評価基準	学生支援
	中期目標	学生と教員の円滑な連絡手段を整備する
	年度目標	学生と教員の連絡方法に関する課題を確認する
	達成指標	教員のメールアドレス公開やオフィスアワーの活用について現状把握を行う
年度 末 報 告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	教員全員のメールアドレスが公開されていることを確認した。教員と学生の連絡方法の現状把握をサウンディングするために一部の学生に対してアンケート調査を行い、運営委員会・教授会で共有した。
	改善策	より詳細なアンケート調査などを用いて学生と教員のより円滑な連絡方法の検証を行う。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	オンラインと対面授業が併用されている状況下で学生と教員の連絡方法の実態を把握したことは評価できる。
	改善のための提言	コロナ禍から通常の授業形態に戻る次年度以降において、より一層の学生ケアが必要になる可能性があるため、継続して教員と学生の円滑な連絡方法の検証を行うことが望ましい。
	評価基準	社会連携・社会貢献
	中期目標	1) 連続シンポジウムなどの公開授業やデザインスクールを展開し、デザイン工学分野が果たす社会貢献・社会連携を強化する 2) 沼津市との「景観・まちづくり等に関する協定」についての取り組みを推進する
	年度目標	1) 感染防止対策を徹底しながら、公開授業やデザインスクールを具体的に実施する 2) 協定の具体化を進める
	達成指標	1) 公開授業やデザインスクールの告知方法やフィードバックの方策を

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

	検討する 2) 現地において学生が参画したワークショップを実施する	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価 S	
	理由	1) 公開授業（デザインフォーラム）はオンラインで実施し、一定数の外部参加者が継続して聴講していることを確認した。デザインスクールは対面で実施し、アンケート調査により参加者の動向を把握した。 2) 沼津市との協定に基づき現地でのワークショップを実施し、その成果を新聞などの報道を通して地域へ周知することができた。
	改善策	1) 特になし 2) 特になし
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	公開授業や沼津市との協定によるワークショップによって社会貢献・連携が具体的な成果として得られていることは高く評価できる。
改善のための提言	デザインスクールは学部教育の特徴を社会へアピールする良い機会なので、より一層の幅広い参加者を迎えるための方策を検討することが望まれる。また、沼津市との連携活動も継続的に実施されることを期待したい。	
【重点目標】 デザイン工学部基盤教育方針に沿った具体的な科目設置と担当する専任教員の採用を行う		
【目標を達成するための施策等】 基盤教育委員会を中心に基盤科目の構築と専任教員の人選を検討する		
【年度目標達成状況総括】 基盤科目の整備と新カリキュラムを策定したことが大きな成果だった。引き続き、基盤科目を担当する教員の採用を重点目標として取り組む必要がある。 来年度より通常の授業形態に戻り学習環境が大きく変わるため、学生に対する支援・サポートの重要性が高まることが予想される。教室利用や学生と教員の連絡方法の現状把握・検証などを継続して実施し、コロナ禍から平常時へのスムーズな移行を実施したいと考える。		

IV 2023 年度中期目標・年度目標

評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
中期目標	1) デザイン工学部基盤教育方針を反映したカリキュラムの再整備を行う 2) デザイン工学部全体の英語教育のあり方について検討する
年度目標	1) 2023 年度カリキュラム改定に伴って、基盤教育担当教員の採用分野を選定する 2) 英語教育に関しては低学年と高学年の連携も含めて、デザイン工学部に相応しい教育方針の検討を継続的に実施する
達成指標	1) 基盤教育方針に沿った分野を担当できる教員を割り当てる 2) コロナ収束後の「海外英語研修」について検討する
評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
中期目標	1) 造形製作教育の中期的な運用・更新計画を検討する 2) 対面とオンライン教育を併用した実効的な教育方法を検討する
年度目標	1) 造形製作室の利用状況をモニタリングし、安全性を配慮した運用方法を検討する

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

	2) コロナ収束後のオンライン授業の有効な活用方法を検討する
達成指標	1) 造形制作室の中期的な運用計画策定する 2) 対面を原則としつつオンライン授業の方が教育効果の高い事例を把握し、カリキュラムに活かす
評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
中期目標	学部横断的な学習成果の共有と評価方法を検討する
年度目標	学部横断科目の確認と他学部学生の履修状況を把握・分析し、共有する。
達成指標	学修成果可視化システムを用いて、学部横断科目履修学生の学修成果を把握する
評価基準	学生の受け入れ
中期目標	デザイン工学部の教育の特徴や魅力を独自に発信する方法を検討する
年度目標	学生の受賞情報など、大学全体のホームページへ情報を提供する手順を整理する。
達成指標	学生の受賞情報など、大学全体のホームページへの掲載情報を吟味し、見せ方を工夫する
評価基準	教員・教員組織
中期目標	2021年度に策定した基盤教育方針に沿った専任教員の配置と、適切な年齢構成への移行
年度目標	・基盤教育方針に沿って、担当分野を選定し、専任教員の採用方法を決定する ・教員組織の年齢構成、分野のバランスを考慮した適切な新規採用人事を行う
達成指標	基盤教育担当専任教員3名の新規採用人事を行う
評価基準	学生支援
中期目標	学生と教員の円滑な連絡手段を整備する
年度目標	学生と教員の連絡方法に関する課題を確認する
達成指標	学習支援システムの掲示板機能などの利用事例を調査し、活用方法を検討する
評価基準	社会連携・社会貢献
中期目標	1) 連続シンポジウムなどの公開授業やデザインスクールを展開し、デザイン工学分野が果たす社会貢献・社会連携を強化する 2) 沼津市との「景観・まちづくり等に関する協定」についての取り組みを推進する
年度目標	1) 公開授業やデザインスクールを具体的に実施する 2) 市職員の本学における講演とそれに対する学生の質疑で交流を図る
達成指標	1) 公開授業やデザインスクールの告知方法やフィードバックの方策を検討する 2) 1回以上の講演会を実施する
<p>【重点目標】 デザイン工学部基盤教育の基本方針とこれに沿って、専任教員の採用を行う。</p> <p>【目標を達成するための施策等】 基盤教育における担当分野の選定と採用方法を具体的に決定し、教員3名の新規採用人事を行う</p>	

【大学評価総評】

デザイン工学部は、ほぼすべての評価項目について適切に対応しており、各学科の特色を活かしながら着実に各項目を推進している。特に、地域連携、社会貢献活動を通じた教

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

育の充実化等への取り組みは他学部にも参考になると思われる。強力な地域連携を有することは法政大学の強みに繋がる可能性があることから、今後も継続的に推進することが望まれる。また、デザイン工学部の各学科は、工学を基本にしながらも他の組織や学問分野との連携を図ることで学生教育の充実を図っている。このアプローチは、知識の融合による正しい価値を創造しデザインする工学としての「総合的デザイン」能力を身につけた学生を養成する理念にかなっており、高く評価できる。COVID-19 への対応・対策に関しては、Zoom や学習支援システム、Google Classroom、YouTube 等、複数の対応方法を併用・活用しており、新型コロナ禍前の従来の方法の長所とこれらの新しい方法の長所を融合させることで、新型コロナ禍前の状況に戻った際にも教育の質保証が期待できる。

なお、2022 年度に改善を求められた「卒業研究の実施方法や対応についての具体的な記述」に関しては、「学習成果を把握する取り組み」として各学科で詳細な記述を追加しており、適切に対応できている。年度目標達成状況報告書では、2022 年度で B 評価であった「学科間を横断して学習成果の共有や議論」に関して、「学部横断科目の確認と他学部学生の履修状況を把握・分析し、共有する」ことを年度目標としており妥当である。

【法令要件やその他の基礎的な要件の充足状況の確認】

2023 年度自己点検・評価シートに記載された Ⅱ 自己点検・評価（1）点検・評価項目における現状を 確認	法令要件やその他の基礎的な要件が充足していることが確認できた
< 法令要件やその他の基礎的な要件が充足していない項目 >	

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。